

平成 17 年度（後期）「学生による授業評価」アンケート報告

—全体集計をととして—

1. 実施目的

充実した教育を学生に提供することは大学の重要な責務であり、大学にふさわしい教育の質を確保するためには、計画、実施、結果分析、改善を繰り返す PDCA システムを構築しなければならない。また、このシステムを適切に機能させるためには定期的な点検が不可欠であり、学生による授業評価とその分析、そして報告書の作成に至る作業がある。

もとより個々の教員は、授業に対して様々な工夫を凝らしている。しかしながら、それだけで大学全体の教育活動が着実に良くなるとは限らない。大学は、常に個々の教員の授業が適正に実施されているか否かの把握に努め、問題があれば大学全体として担当教員を支援し、改善に向けた取組みを促す責任を負っている。すなわち、大学は個々の授業を大学全体の責務として捉える必要があり、学生による授業評価を、大学全体の組織的な取組みとして実施する意義はそこにある。

もちろん、アンケートでは授業評価がしきれない側面もある。学生の回答そのものも、認識の範囲を超えるものではない。授業時間割の配置に全く問題がないわけでもない。だが、学生による授業評価をテーマとした先行研究によれば、教育的効果が論じられ、また、学生はかなりの評価能力を持ち、適正な評価を下していると、その信頼性や妥当性についても言及されている（安岡 2004）¹。授業を実際に受けた学生の評価や意見を集約し、現状を把握する作業は地味ではあるが、授業改善にとって有益な情報源になるといえよう。

以上の点を踏まえ、本学では学生による授業評価アンケートを実施するに当たり、具体的目的として次の点を挙げている。

- ①教員が自らの授業改善のための資料を得る。
- ②学生の学習姿勢を知るための資料とする。
- ③学生の授業への期待のありかを知るための資料を得る。
- ④学生に授業履修への積極性と責任意識を喚起する。
- ⑤学部・学科の授業時間割、およびカリキュラムの有効性を検討するための資料を得る。
- ⑥大学としての教育力向上に必要な方策を立てるための資料を得る。

学生による授業評価アンケートの本報告が、教員を始め、学部・学科の授業改善についての認識を一層高め、カリキュラムや授業方法等の見直しに役立つ資料となることを願うものである。

2. 実施内容

- (1) 実施期間：平成 18 年 1 月 20 日～2 月 6 日
- (2) 対象科目：県立広島大学²平成 17 年度後期開講の、全授業科目（通年科目を含む。但し、「卒業論文」、「学外実習科目」を除く。）とした。
- (3) 調査項目：所属等の属性のほか、質問項目は、A. 学生自身について、B. 授業と教員について

¹ 安岡高志 2004, 「授業改革の実際—学生による授業評価の視点—」 絹川正吉・館 昭編『学士課程教育の改革』東信堂, 269-288 頁。

² 県立広島大学は、県立広島女子大学、広島県立大学、広島県立保健福祉大学の3大学が統合し、平成 17 年 4 月に開学した。「学生による授業評価」アンケートは、県立3大学も同様に実施したが、本報告は県立広島大学における教育課程についての結果報告である。

の2つのグループから構成した。アンケート質問紙は、講義・演習科目用と実験・実習科目用の2種類に分けた。全授業科目に共通する質問は11問、講義・演習用と実験・実習用の各々の質問を9問、合わせて各20問から成る。回答は4段階評価方式（4強く思う、3そう思う、2そう思わない、1全くそう思わない）とした（質問1と3については別途選択肢）。調査方法は無記名方式とした。

(4) アンケート調査の集計結果：担当教員には基本データとして、担当科目の履修登録者数、回答者数、回答率、質問項目ごとの回答者数、平均値、グループ（講義・演習科目又は実験・実習科目）の平均値、および標準偏差、ならびに担当科目平均値とグループ平均値との比較棒グラフを付した集計表と、学生による自由記述意見のリストをフィードバックした。また、学部もしくは学科別に集計した同様の集計表は、教員コメント等の取りまとめを依頼した高等教育推進部門会議委員へ、全学共通教育科目の集計は、全学共通教育部門長へフィードバックした。

なお、調査用紙の印刷、授業科目担当教員別調査用紙の袋詰め、各キャンパスへの納品と回収、集計作業（学部・学科単位の集計を含む。）は外部委託した。

3. 実施状況

実施状況は表1のとおりであった。

表1 授業評価実施状況

| 学部 | 学科 | 履修登録者数 | 回答者数 | | | | 回答者数/登録者数 |
|------|---------------|--------|----------|--------|-------|------|-----------|
| | | | 全学共通教育科目 | 専門教育科目 | | 全学 | |
| | | | | 講義・演習 | 実験・実習 | | |
| 人間文化 | 国際文化学科 | 1411 | 767 | 375 | - | 1142 | 85.1% |
| | 健康科学科 | 571 | 239 | 205 | 101 | 545 | |
| 経営情報 | 経営学科 | 1150 | 564 | 284 | - | 848 | 71.0% |
| | 経営情報学科 | 788 | 356 | 171 | - | 527 | |
| 生命環境 | 生命科学科 | 1757 | 979 | 253 | 287 | 1519 | 87.6% |
| | 環境科学科 | 995 | 573 | 141 | 177 | 891 | |
| 保健福祉 | 看護学科 | 1105 | 252 | 587 | 60 | 899 | 82.5% |
| | 理学療法学科 | 473 | 124 | 267 | - | 391 | |
| | 作業療法学科 | 501 | 124 | 212 | 53 | 389 | |
| | コミュニケーション障害学科 | 514 | 128 | 329 | - | 457 | |
| | 人間福祉学科 | 454 | 187 | 191 | - | 378 | |
| | 不明 | - | 74 | 50 | 19 | 143 | |
| | 全学 | 9719 | 4367 | 3065 | 697 | 8129 | 83.6% |

* 履修登録者数・回答者数はいずれも延べ人数である。

4. 全学集計の結果

全学集計に当たっては、全授業科目を、①全学共通教育科目、②専門教育科目（講義・演習）、③専門教育科目（実験・実習）の3群に分け、質問項目に対する回答（「強く思う」、「そう思う」、「そう思わない」、「まったくそう思わない」など）の割合や平均値（資料2参照）を比較した。

(1) 学生の自己評価

まず初めに学生の学習態度を見てみる。

問.「あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。」

図1, 表1に学生の出席状況を示した。いずれの授業科目も90%以上の学生が出席率は7割以上と答えている。特に授業形態上, 実験・実習科目は課題解決型学習であり, 積み上げ方式の内容であることが多いためか, 96.4%の学生が9割以上出席している。これに対して, 専門教育科目(講義・演習)で9割以上の出席者となると84.2%, 全学共通教育科目では75.9%と減少している。授業の実施状況に著差が生じている。しかし, 例えば大講義室で遠隔システムを使用しての多人数授業と, ゼミ・演習形式の授業との間で, ある程度の差が生じることはやむを得ないと判断するならば, 平均値の隔たりは憂慮する範囲とはいえない。ただ, 出席状況は, 教室の大きさや受講生の数のみで左右されるわけではないので, 授業内容や方法などについての点検を怠るわけにはいかない。

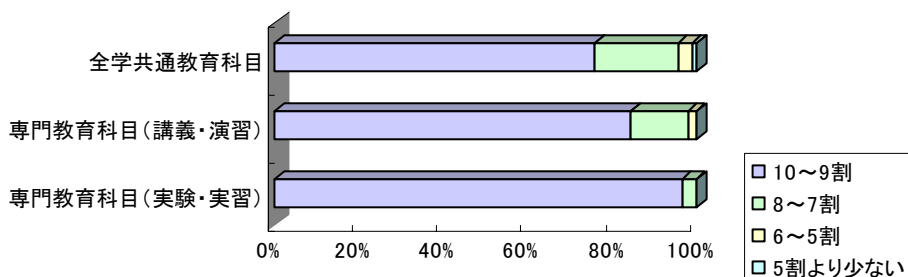


図1 授業出席状況

表1 授業出席状況

| 科目群 | 10~9割 | 8~7割 | 6~5割 | 5割より少ない | 合計(人) |
|---------------|-------|-------|------|---------|-------|
| 全学共通教育科目 | 75.9% | 19.6% | 3.3% | 1.2% | 4360 |
| 専門教育科目(講義・演習) | 84.2% | 13.6% | 1.8% | 0.4% | 3063 |
| 専門教育科目(実験・実習) | 96.4% | 3.2% | 0.0% | 0.4% | 696 |
| 全学 | 80.8% | 15.9% | 2.5% | 0.8% | 8119 |

P<.01

問.「あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。」

図2, 表2に学生の学習意欲の結果を示した。

肯定的回答は, 専門教育科目(実験・実習)が92.0%で最も高い。続いて専門教育科目(講義・演習)の83.8%, 全学共通教育科目の76.7%となっている。しかし, 平均値から判断すれば, 全学共通教育科目は2.99で, 必ずしも低いとはいえない。

一見して学生は, 専門教育の基盤となる教養的教育科目よりも, 学科専門的教育科目の方を重視しているように見受けられる。将来の就職や, 資格取得を強く意識しているのかもしれない。また, 教育課程の配当上, 全学共通教育科目は1年次にシフトしており, 逆に専門教育科目の授業数は少ない。それだけに学生の興味関心は, 配当が少ない専門教育科目を指向しているのかもしれない。学生数が

50名を超えると、クラス全体の集中力が急激に弱まることが実証されているのも事実である³。けれども、いわゆる洞察力や相対的な物の見方、考え方といった基本的思考力こそ、教養的教育科目を中心に身につく能力といえる。

今後、学生に対しては、全学共通教育科目の意義や学ぶことの重要性について、より一層の意識醸成を払う必要があると思われる。

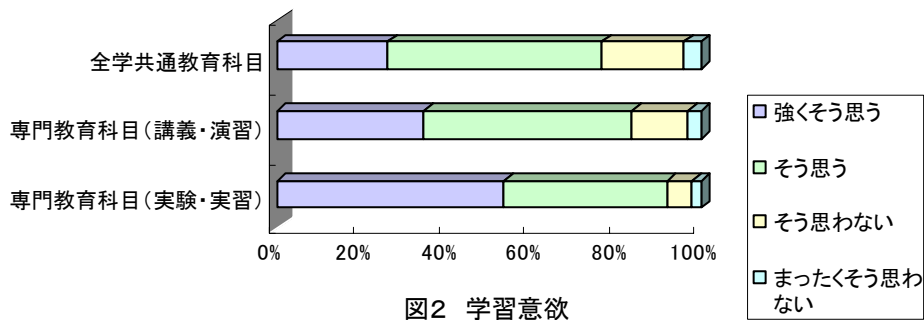


表2 学習意欲

| 科目群 | 強くそう思う | そう思う | そう思わない | まったくそう思わない | 合計(人) |
|---------------|--------|-------|--------|------------|-------|
| 全学共通教育科目 | 26.2% | 50.5% | 19.1% | 4.1% | 4357 |
| 専門教育科目(講義・演習) | 34.8% | 49.0% | 13.0% | 3.2% | 3057 |
| 専門教育科目(実験・実習) | 53.7% | 38.3% | 5.8% | 2.2% | 694 |
| 全学 | 31.8% | 48.9% | 15.7% | 3.6% | 8108 |

P<.01

問.「この授業のために、授業時間以外の学習を1週間あたり何時間くらいしましたか。」

図3, 表3に1週間の学生の当該科目の学習時間を示した。

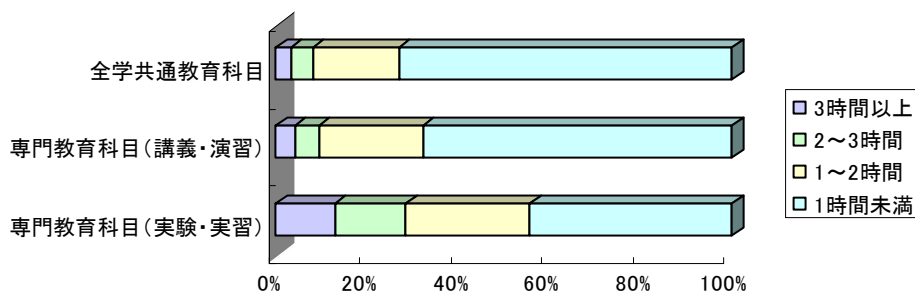


図3 1週間の学習時間

³ 大江淳良 2006, 「キャリア開発支援とは何か」『IDE 現代の高等教育』483号, 9-15頁。

表3 1週間の学習時間

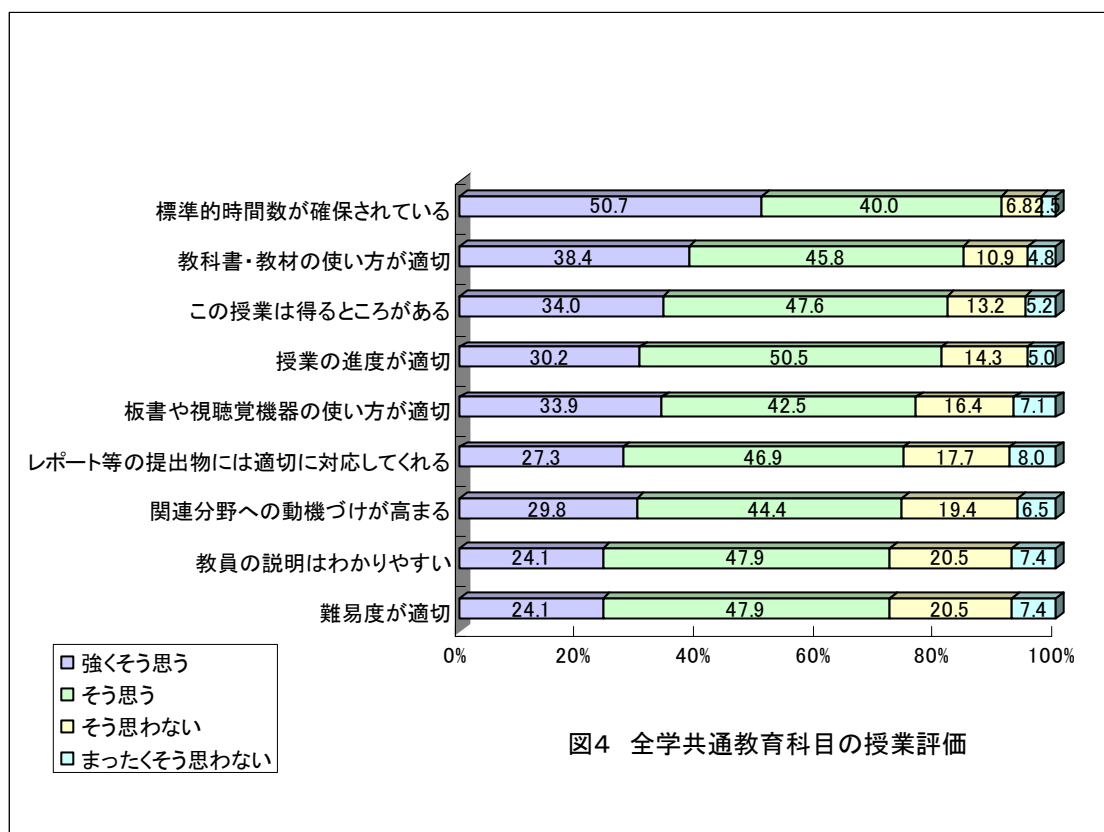
| 科目群 | 3時間以上 | 2～3時間 | 1～2時間 | 1時間未満 | 合計(人) |
|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全学共通教育科目 | 3.2% | 4.9% | 18.9% | 72.9% | 4348 |
| 専門教育科目(講義・演習) | 4.1% | 5.2% | 22.8% | 68.0% | 3058 |
| 専門教育科目(実験・実習) | 12.9% | 15.5% | 27.2% | 44.3% | 695 |
| 全学 | 4.4% | 5.9% | 21.1% | 68.6% | 8101 |

P<.01

2時間から3時間以上学習しているのは、専門教育科目(実験・実習)が28.4%で最も多い。実験・実習科目は、授業の前後に必ず課題に関わる予習やレポートの提出を求められるので、学習時間が多くなるのは当然のことであろう。それに比べると専門科目(講義・演習)は、9.3%、全学共通教育科目は8.1%と少ない。講義・演習科目に対して、予習復習に時間を割く学生が少ないという印象を受けるが、当該科目のみについての質問であり、1週間に15科目から20科目近く履修している学生にとって、受講科目のそれぞれに数時間の学習時間を当てたのでは睡眠時間すら確保できなくなる場合もある。むしろ学生は、実験・実習科目を勉学の重要な位置付けとして捉えていると、みなすことができる。

(2) 全学共通教育科目の評価

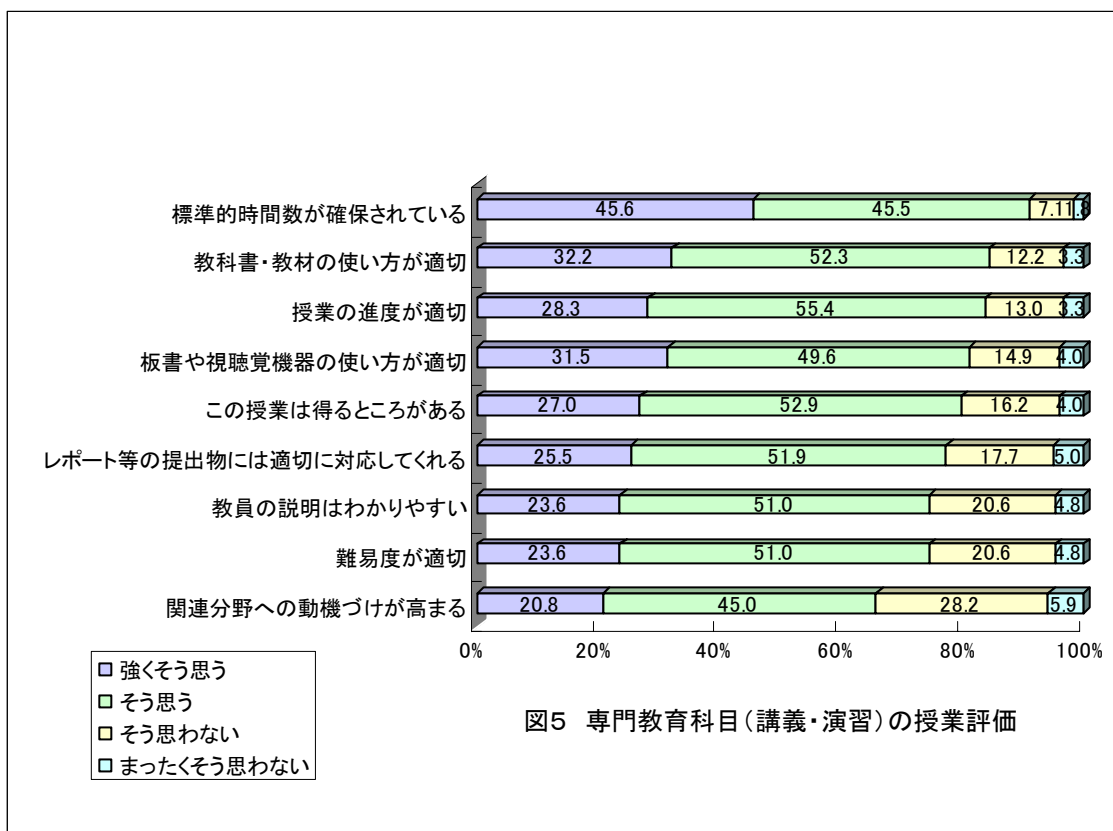
全学共通教育科目は、基幹科目、複合科目、フレッシュマンセミナー、外国語科目、情報科目、保健体育科目に区分され(ただし、人間文化学部国際文化学科では外国語科目を、健康科学科では情報科目と保健体育科目を除く。)、教養的教育として全学的に実施されている。なお、教職課程が全学共通教育部門に属するところから、教職に関する科目は便宜的に全学共通教育科目の中に入れて集計した。図4に、肯定的回答が多かった順に全学共通教育科目の評価を示した。



問.「教員の遅刻や休講がなく、標準的な授業時間数（90分×15回）が確保されていましたか。」の評価が最も高く、90.7%であった。肯定的回答を80%以上得た項目は、「教科書やプリントなどの補助教材は、授業内容の理解に役立ちましたか。」（84.2%）、「この授業により、自分の考えが培われるなど、得るところがありましたか。」（81.6%）、「あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。」（80.7%）など、教員が学生のための授業準備物や、進捗状況を几帳面に考慮している点が窺える。一方、肯定的回答率が下位の項目は「理解すべき重要な箇所が強調されるなど、授業の説明はわかりやすかったですか。」と「あなたにとって授業内容の難易度は適切でしたか。」で、いずれも72.0%であった。学部・学科ごとの学生の特性や気質、学習態度等に差異があるほど、授業に工夫を要することになる。全学共通科目を専門科目と有機的に統合させるためには、この点を最も考慮しなければならない。授業を繰り返す中で、シラバスの修正等が求められることになろう。また、25.8%が、「教員は、あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応（アドバイス・評価等）をしてくださいましたか。」の質問に否定的回答をしている。約四分の一の受講生は、毎回ではないにせよ、せっかく提出したレポートが何らかの形でフィードバックされないことに不満を抱いていると見て取れる。学科専門の教育科目に比べて全学共通教育科目のクラスサイズに問題があるにせよ、教育の質に違いがあって良いわけではない。

（3）専門教育科目（講義・演習）の授業評価

図5に、専門教育科目（講義・演習）の評価を、肯定的回答が多かった順に示した。

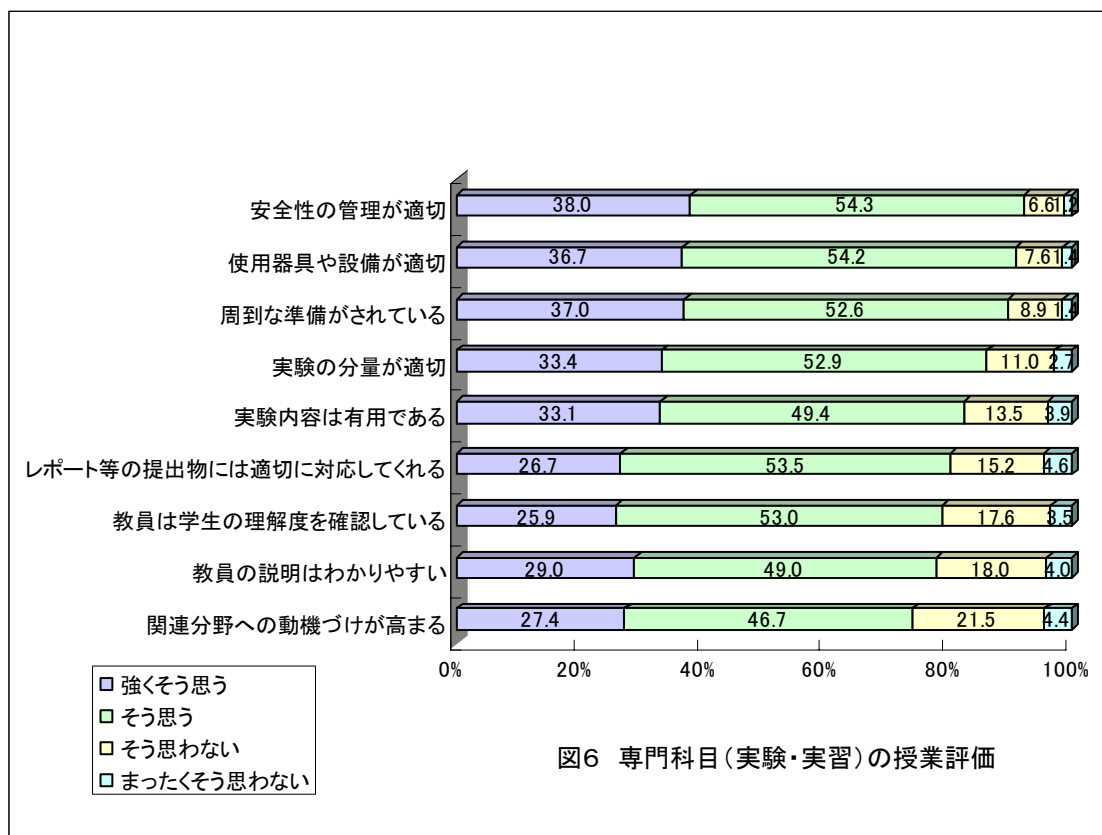


先に見た全学共通教育科目の評価と大きく異なる部分はない。特に上位項目は概ね一致しており、教員は丁寧に授業を実施していると理解できる。しかし、肯定的回答が最も少なかった（65.8%）項目は、「この授業により知的な刺激を受け、さらに関連する分野を学んでみたいと思いましたか。」の質問で、体系化されているはずの専門教育課程への導入が、学生にはいささか困難さを感じさせているのではないかとの印象を受ける。カリキュラムの体系的編成、教養教育と専門教育の有機的統合、学生の成長発達に対応したカリキュラムの構築等に関しては、様々な議論や問題点が、指摘されている⁴。学生の啓発や学習意欲の動機付けには地道な努力を要することを考えれば、組織的に改善に取り組む必要があるといえる。

（4）専門教育科目（実験・実習）の授業評価

図6に、専門科目（実験・実習）の評価を、肯定的回答が多かった順に示した。

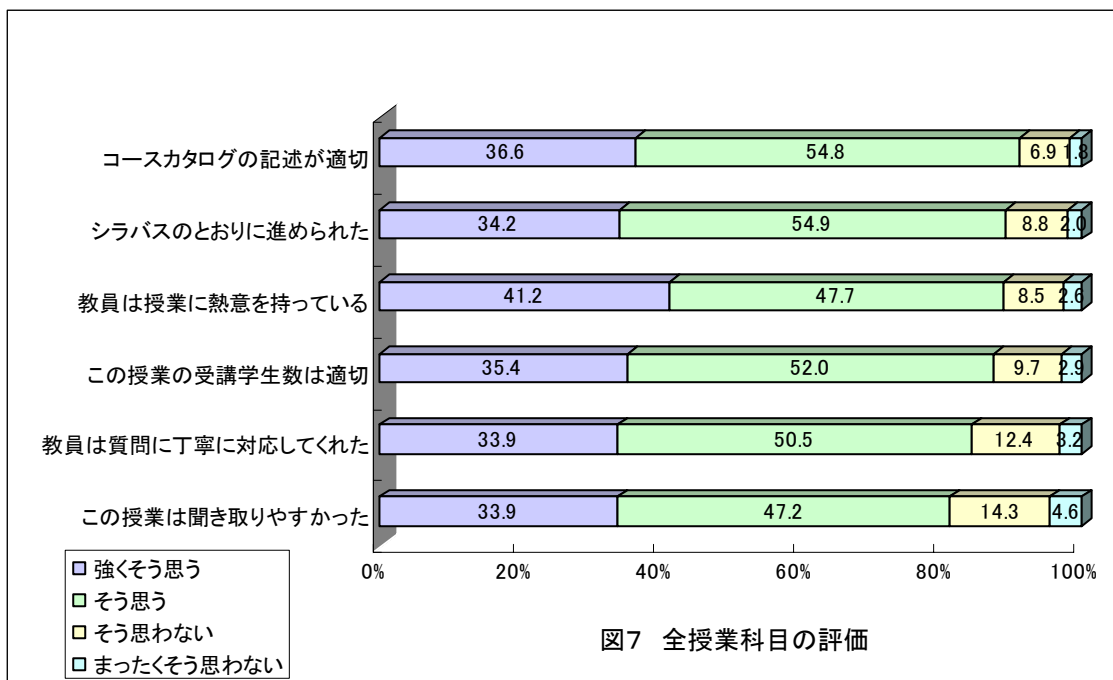
実験・実習科目は、講義・演習科目よりも相対的に肯定的回答率が高い傾向がある。授業に関わる用意周到な準備と、量的にも無理のない、安全性に留意した授業が実施されていることがわかる。「実験内容はあなたにとって有用でしたか。」の項目も、82.5%で評価は高い。しかし、講義・演習科目同様に、「実験内容に関連したことを、さらに勉強してみようと思いましたか。」という向学心を問う項目は74.1%で、肯定的回答の中では下位に位置している。実験の準備そのものも重要なことではあるが、実験・実習を通して、学生が未知のことがらを理解する、あるいは新たな知見を得る喜び等を、どのようにすれば習得させることができるのか、これも組織的に取組まねば効果が出てこない教育課題であろう。



⁴ 有本 章編 2003, 『大学のカリキュラム改革』玉川大学出版部。

(5) 全授業科目の評価

これまでの、全学共通教育科目と学科専門教育科目の群を中心に分析してきたが、ここでは、すべての授業科目に質問された共通項目について検討してみた。すなわち、調査項目から、全学共通教育科目、専門教育科目（講義・演習）、専門教育科目（実験・実習）に共通する6項目「コースカタログ（授業案内）等で授業の目的、内容、成績評価の基準は適切に示されましたか。」「授業の内容はシラバス（授業概要）のとおりに進められましたか。」「教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか。」「教員は学生の質問に丁寧に対応してくれましたか。」「教員が授業に熱意を持っていると感じられましたか。」「学生数は適切でしたか。」を抽出し、これを全授業科目に関わる評価として、図7に示した。



コースカタログ（91.4%）とシラバス（89.1%）に関わる肯定的回答率が高い。いずれも学生に評価されていると受け止めることができる。教員の熱意も、学生には伝わっているようである（88.9%）。ただし、「教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか。」の問に対して18.9%の学生は、否定的回答を提示している。すべての受講生にとって、聞き取りやすい授業が恒常的になされているかどうかは、必ずしも断定できないところであろう。教室の大きさや周囲の状況にも影響されることではあるが、マイクの使用を心がけるとか、あらかじめ後方の席の学生に声の大きさを確認するなどにより、改善が比較的容易な項目といえる。教員のちょっとした気配りに学生は敏感に反応してくれるのではなかろうか。とりわけ遠隔システムを利用した講義の場合、教員側からは死角になる部分もあり、学生の授業態度のすべてを把握できないもどかしさがある。授業中に何度か他キャンパスへの声かけをするだけでも学生が受け止める印象は違ってくる。

(6) 授業の総合的評価

アンケート項目のうち、「総合的に判断して、この授業に満足していますか。」と「この授業科目の

受講を後輩にすすめたいと思いますか。」の各項目は、授業の総合的評価項目とみなすことができる。そこで、この2つの項目に対して、全学共通教育科目、専門教育科目（講義・演習）、専門教育科目（実験・実習）3群の集計結果の比較を試みた。図8、表8に総合的満足度を、また、後輩に勧めたい授業かどうかをたずねた結果を図9、表9に示した。

いずれも肯定的回答がほぼ8割を占めている。平均値もいずれも3以上で高い。全授業科目が相対的に高く評価されていると考えて良からう。

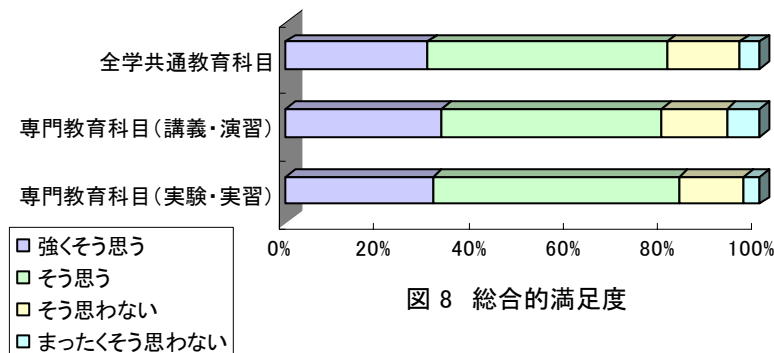


表8 総合的満足度

| 科目群 | 強く思う | そう思う | そう思わない | まったく思わない | 合計(人) |
|---------------|-------|-------|--------|----------|-------|
| 全学共通教育科目 | 29.8% | 50.7% | 15.4% | 4.1% | 4355 |
| 専門教育科目(講義・演習) | 32.9% | 46.5% | 13.7% | 6.9% | 3060 |
| 専門教育科目(実験・実習) | 31.0% | 52.0% | 13.8% | 3.2% | 694 |
| 全学 | 31.1% | 49.2% | 14.6% | 5.1% | 8109 |

P<.01

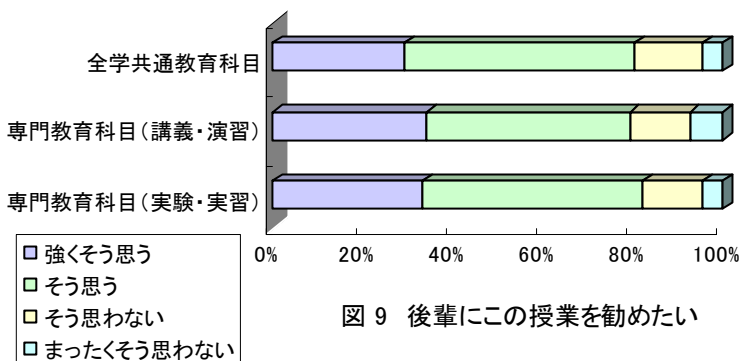


表9 後輩にこの授業を勧めたい

| 科目群 | 強くそう思う | そう思う | そう思わない | まったくそう 思わない | 合計(人) |
|---------------|--------|-------|--------|----------------|-------|
| 全学共通教育科目 | 29.3% | 51.0% | 15.3% | 4.4% | 4361 |
| 専門教育科目(講義・演習) | 34.2% | 45.2% | 13.3% | 7.4% | 3059 |
| 専門教育科目(実験・実習) | 33.3% | 48.8% | 13.3% | 4.6% | 694 |
| 全学 | 31.5% | 48.6% | 14.4% | 5.5% | 8114 |

P<.01

(7)「授業の総合的評価」に基づく学部・学科間の比較

最後に、学部・学科間の差を検討するため、先にみた2つのアンケート項目について、平均値の差の検定を行った。

- * 各表の学部・学科群は、平均値の低いものから昇順にならぶ。
- * 同じサブグループに平均値が示されている群どうしには差がなく、異なるサブグループにある群どうしには有意な差がある。
- * 差は、相対的なものなので、群のならば順のみならず、理論的な中央値を超えているかどうかなどの数値の水準に関する検討も必要である。

表10 「総合的に判断して、この授業に満足していますか。」に対する学部ごとの度数および平均値、一要因の分散分析の結果

| 学部・学科 | 人数 | 互いに統計的に差のないサブグループ | | | | |
|--------|------|-------------------|------|------|------|------|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 生命環境学部 | 2401 | 2.86 | 2.86 | | | |
| 国際文化学科 | 1137 | | 2.94 | 2.94 | | |
| 経営情報学部 | 1372 | | 2.97 | 2.97 | | |
| 健康科学科 | 545 | | | | 3.16 | |
| 保健福祉学部 | 2512 | | | | | 3.33 |

* 分散分析および多重比較で用いた水準は P<.05

表11 「この授業科目の受講を後輩にすすめたいと思いますか。」に対する学部ごとの度数および平均値、一要因の分散分析の結果

| 学部・学科 | 人数 | 互いに統計的に差のないサブグループ | | | | |
|--------|------|-------------------|------|------|------|------|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 生命環境学部 | 2403 | 2.84 | | | | |
| 国際文化学科 | 1142 | | 2.94 | 2.94 | | |
| 経営情報学部 | 1372 | | 2.99 | 2.99 | | |
| 健康科学科 | 545 | | | | 3.18 | |
| 保健福祉学部 | 2511 | | | | | 3.33 |

* 分散分析および多重比較で用いた水準は P<.05

学生の授業に対する総合的評価を学部・学科間で比較すると、相対的に保健福祉学部が最も高く、続いて人間文化学部健康科学科の評価が高い。生命環境学部の評価が低いことが示された。しかし、生命環境学部の平均値は2項目とも2点をはるかに上回る数値であり、絶対的な評定基準としての評価が低いわけではない。また、総合評価の高低は、その学問領域における科目の位置づけ、あるいは学問的性質による授業内容の違いなども考慮する必要があることは、いうまでもないことである。

5. 考察

大学教員には、授業方法・内容に関する、いわゆる相互不可侵条約が結ばれ、それが美德とされてきた。その結果、授業を改善するための制度設計はきわめて困難であった。授業改善を求める学生の声が出た場合も、授業の中身と評価結果が公開されていないために、踏み込んだ議論が十分になされないことが多々あった。

ところが、ユニバーサル段階の大学には、多様な学生が様々な付加価値を求めて入学してきている。しかも、18歳人口の減少は大学の市場環境を一変させた。かつては象牙の塔といわれた大学も、今日では教育研究から管理運営面まで、経営的発想が声高に叫ばれている。こうした点を勘案すれば、教員個人の授業改善だけでは、すべてに対応しきれない状況に大学が置かれていることが理解できる。良質の教育を安定的に供給するには、その需要の実態を認識した上で、大学は組織としても授業改善に臨まなければならない。そのためには、学生の声に即応する形で、すぐにできるところから手がけなければならない。

本調査の分析結果から明らかになった点を次に述べる。

- ①本学学生の、日常の授業出席率は高いことが判明した。このことは、授業評価アンケートの回収率からも窺えた。
- ②今回の学生による授業評価の結果は、全体的に概ね良好なものであった。
- ③例えば本学教員は、授業に熱意を持って臨んでいると評価されている。具体的には、標準的授業時間数が確保され、講義で使用する教科書やプリントなどの補助教材、あるいは、実験の準備等、教員の授業に対する積極的な取組みが評価されたと理解できる。
- ④また、コースカタログやシラバスの内容は適切で、信頼できる情報として評価されている。
- ⑤授業（含む実験科目）における学生数も、ほぼ適切であるとみなされている。
- ⑥しかしその一方で、提出したレポートや宿題等のフィードバックが、十分になされない科目があること、授業によっては、学生の理解度を超えるような内容のものもある。
- ⑦加えて、全ての学生がその授業から知的刺激を受け、学習意欲がさらに啓発されるという状況にまでは至っていないことが、明らかにされた。
- ⑧さらに、授業満足度に対する平均値は、絶対的水準で見れば高いものであったが、学部・学科間には差が認められた。

大概好意的評価が得られたといえなくはないが、これをもって授業が健全になされ、学生の満足度も悪くないと即断すべきではない。大学が生き残るには、より一層の授業の充実と、学生のニーズを明らかにすることが必要条件である。そのための評価手法の継続的改善は、今後の課題としておきたい。

以上、本調査結果は、平成17年度に開学した県立広島大学の、後期開講の授業科目に限定したものであるが、授業改善に関する課題がいくつか明示された。このアンケートから、多くの教員がなにがしかのヒントを得て、次回の授業評価にむけた創意工夫を開始されることを期待したい。また、大学の教育力の向上につながるべく組織的な取り組みの必要性を痛感する。今後の「学生による授業評価」調査の継続と結果により、そうした教育力向上を目指した活動の検証を果たしていきたいと考えている。

資料2 データ集計結果

表中の平均値は、回答項目、例えば「全くそう思わない」を1、「そう思わない」を2、「そう思う」を3、「強くそう思う」を4として算出した。数値が大きいほど肯定的と認識されている。

表1 全学共通教育科目の項目別平均値

| 項目 | 人数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
|---|------|-----|-----|------|------|
| ●学生自身についての質問 | | | | | |
| 1 あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない) | 4360 | 1 | 4 | 3.70 | 0.59 |
| 2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 | 4357 | 1 | 4 | 2.99 | 0.79 |
| 3 この授業のために、授業時間以外の学習を1週間あたり何時間くらいしましたか。 (4:3時間以上, 3:2~3時間, 2:1~2時間, 1:1時間未満) | 4348 | 1 | 4 | 1.38 | 0.73 |
| ●授業と教員についての質問 | | | | | |
| 4 コースカタログ(授業案内)等で授業の目的、内容、成績評価の基準は適切に示されましたか。 | 4355 | 1 | 4 | 3.24 | 0.65 |
| 5 授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。 | 4355 | 1 | 4 | 3.18 | 0.67 |
| 6 理解すべき重要な箇所が強調されるなど、授業の説明はわかりやすかったですか。 | 4357 | 1 | 4 | 3.04 | 0.78 |
| 7 あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。 | 4358 | 1 | 4 | 2.93 | 0.79 |
| 8 この授業により、自分の考えが培われるなど、得るところがありました | 4356 | 1 | 4 | 3.03 | 0.77 |
| 9 この授業により知的な刺激を受け、さらに関連する分野を学んでみたいと思いましたか。 | 4353 | 1 | 4 | 2.81 | 0.83 |
| 10 教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか。 | 4350 | 1 | 4 | 3.17 | 0.74 |
| 11 黒板、視聴覚・情報機器を使用する授業の場合、使い方は適切でしたか。 | 4354 | 1 | 4 | 3.09 | 0.79 |
| 12 教科書やプリントなどの補助教材は、授業内容の理解に役立ちましたか。 | 4338 | 1 | 4 | 3.13 | 0.75 |
| 13 教員は学生の質問に丁寧に対応してくれましたか。 | 4348 | 1 | 4 | 3.17 | 0.72 |
| 14 あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。 | 4348 | 1 | 4 | 3.09 | 0.73 |
| 15 教員が授業に熱意を持っていると感じられましたか。 | 4350 | 1 | 4 | 3.31 | 0.68 |
| 16 教員の遅刻や休講がなく、標準的な授業時間数(90分×15回)が確保されていましたか。 | 4356 | 1 | 4 | 3.35 | 0.69 |
| 17 教員は、あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。 | 4303 | 1 | 4 | 2.98 | 0.79 |
| 18 学生数は適切でしたか。 | 4356 | 1 | 4 | 3.16 | 0.71 |
| ●授業の総合的評価 | | | | | |
| 19 総合的に判断して、この授業に満足していますか。 | 4355 | 1 | 4 | 3.06 | 0.78 |
| 20 この授業科目の受講を後輩にすすめたいと思いますか。 | 4361 | 1 | 4 | 3.05 | 0.79 |

表2 専門教育科目(講義・演習)の項目別平均値

| 項目 | 人数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
|---|------|-----|-----|------|------|
| ●学生自身についての質問 | | | | | |
| 1 あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない) | 3063 | 1 | 4 | 3.82 | 0.46 |
| 2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 | 3057 | 1 | 4 | 3.15 | 0.76 |
| 3 この授業のために、授業時間以外の学習を1週間あたり何時間くらいしましたか。 (4:3時間以上, 3:2~3時間, 2:1~2時間, 1:1時間未満) | 3058 | 1 | 4 | 1.45 | 0.77 |
| ●授業と教員についての質問 | | | | | |
| 4 コースカタログ(授業案内)等で授業の目的、内容、成績評価の基準は適切に示されましたか。 | 3058 | 1 | 4 | 3.27 | 0.69 |
| 5 授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。 | 3057 | 1 | 4 | 3.22 | 0.71 |
| 6 理解すべき重要な箇所が強調されるなど、授業の説明はわかりやすかったですか。 | 3060 | 1 | 4 | 3.02 | 0.90 |
| 7 あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。 | 3061 | 1 | 4 | 2.89 | 0.86 |
| 8 この授業により、自分の考えが培われるなど、得るところがありました | 3060 | 1 | 4 | 3.10 | 0.82 |
| 9 この授業により知的な刺激を受け、さらに関連する分野を学んでみたいと思いましたか。 | 3061 | 1 | 4 | 2.97 | 0.87 |
| 10 教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか。 | 3061 | 1 | 4 | 3.03 | 0.89 |
| 11 黒板、視聴覚・情報機器を使用する授業の場合、使い方は適切でしたか。 | 3055 | 1 | 4 | 3.03 | 0.89 |
| 12 教科書やプリントなどの補助教材は、授業内容の理解に役立ちましたか。 | 3057 | 1 | 4 | 3.18 | 0.81 |
| 13 教員は学生の質問に丁寧に対応してくれましたか。 | 3041 | 1 | 4 | 3.11 | 0.80 |
| 14 あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。 | 3061 | 1 | 4 | 3.06 | 0.80 |
| 15 教員が授業に熱意を持っていると感じられましたか。 | 3061 | 1 | 4 | 3.24 | 0.79 |
| 16 教員の遅刻や休講がなく、標準的な授業時間数(90分×15回)が確保されていましたか。 | 3060 | 1 | 4 | 3.39 | 0.72 |
| 17 教員は、あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。 | 2933 | 1 | 4 | 2.94 | 0.88 |
| 18 学生数は適切でしたか。 | 3056 | 1 | 4 | 3.26 | 0.73 |
| ●授業の総合的評価 | | | | | |
| 19 総合的に判断して、この授業に満足していますか。 | 3060 | 1 | 4 | 3.05 | 0.86 |
| 20 この授業科目の受講を後輩にすすめたいと思いますか。 | 3059 | 1 | 4 | 3.06 | 0.87 |

表3 専門教育科目(実験・実習)の項目別平均値

| 項目 | 人数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 |
|---|-----|-----|-----|------|------|
| ●学生自身についての質問 | | | | | |
| 1 あなたはこの実験にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない) | 696 | 1 | 4 | 3.96 | 0.26 |
| 2 あなたはこの実験に意欲的に取り組みましたか。 | 694 | 1 | 4 | 3.44 | 0.70 |
| 3 この実験のために、授業時間以外の学習を1週間あたり何時間くらいしましたか。 (4:3時間以上, 3:2~3時間, 2:1~2時間, 1:1時間未満) | 695 | 1 | 4 | 1.97 | 1.06 |
| ●授業と教員についての質問 | | | | | |
| 4 コースカタログ(授業案内)等で授業の目的、内容、成績評価の基準は適切に示されましたか。 | 693 | 1 | 4 | 3.32 | 0.62 |
| 5 実験の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。 | 694 | 1 | 4 | 3.39 | 0.62 |
| 6 この実験はよく準備されていて、予定の実験が円滑に進められたと思われましたか。 | 694 | 1 | 4 | 3.25 | 0.67 |
| 7 使用した器具や設備は良いと思われましたか。 | 694 | 1 | 4 | 3.26 | 0.66 |
| 8 安全管理に対する配慮が十分になされていましたか。 | 693 | 1 | 4 | 3.29 | 0.64 |
| 9 教員の説明やプリントの内容はわかりやすいと思われましたか。 | 694 | 1 | 4 | 3.03 | 0.79 |
| 10 教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか。 | 694 | 1 | 4 | 3.02 | 0.78 |
| 11 授業時間数に対して、実験項目数は適切でしたか。 | 692 | 1 | 4 | 3.17 | 0.73 |
| 12 実験は学生の反応(理解度)を確認しながら進められていましたか。 | 694 | 1 | 4 | 3.01 | 0.76 |
| 13 教員は学生の質問に丁寧に対応してくれましたか。 | 694 | 1 | 4 | 3.18 | 0.73 |
| 14 教員は、あなたが提出したレポートに対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。 | 692 | 1 | 4 | 3.02 | 0.78 |
| 15 教員が授業(実験)に熱意を持っていると感じられましたか。 | 694 | 1 | 4 | 3.21 | 0.69 |
| 16 実験内容はあなたにとって有用でしたか。 | 694 | 1 | 4 | 3.12 | 0.78 |
| 17 実験内容に関連したことを、さらに勉強してみようと思われましたか。 | 689 | 1 | 4 | 2.97 | 0.82 |
| 18 学生数は適切でしたか。 | 692 | 1 | 4 | 3.17 | 0.76 |
| ●授業の総合的評価 | | | | | |
| 19 総合的に判断して、この授業に満足していますか。 | 694 | 1 | 4 | 3.11 | 0.75 |
| 20 この授業科目の受講を後輩にすすめたいと思いますか。 | 694 | 1 | 4 | 3.11 | 0.80 |

表4 全学共通教育科目の授業評価

| 項 目 | 回 答 (%) | | | | 人数 |
|---|---------|------|------|------|------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| ●学生自身についての質問 | | | | | |
| 1 あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない) | 1.2 | 3.3 | 19.6 | 75.9 | 4360 |
| 2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない) | 4.1 | 19.1 | 50.5 | 26.2 | 4357 |
| 3 この授業のために、授業時間以外の学習を1週間あたり何時間くらいしましたか。 (4:3時間以上, 3:2~3時間, 2:1~2時間, 1:1時間未満) | 72.9 | 18.9 | 4.9 | 3.2 | 4348 |
| ●授業と教員についての質問 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない) | | | | | |
| 4 コースカタログ(授業案内)等で授業の目的、内容、成績評価の基準は適切に示されましたか。 | 1.5 | 7.1 | 57.0 | 34.4 | 4355 |
| 5 授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。 | 1.6 | 9.9 | 57.0 | 31.5 | 4355 |
| 6 理解すべき重要な箇所が強調されるなど、授業の説明はわかりやすかったですか。 | 3.7 | 17.5 | 49.5 | 29.4 | 4357 |
| 7 あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。 | 4.8 | 20.6 | 51.0 | 23.6 | 4358 |
| 8 この授業により、自分の考えが培われるなど、得るところがありました | 4.0 | 16.2 | 52.9 | 27.0 | 4356 |
| 9 この授業により知的な刺激を受け、さらに関連する分野を学んでみたいと思いましたか。 | 5.9 | 28.2 | 45.0 | 20.8 | 4353 |
| 10 教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか。 | 3.0 | 11.6 | 50.7 | 34.7 | 4350 |
| 11 黒板、視聴覚・情報機器を使用する授業の場合、使い方は適切でしたか。 | 4.0 | 14.9 | 49.6 | 31.5 | 4354 |
| 12 教科書やプリントなどの補助教材は、授業内容の理解に役立ちましたか。 | 3.3 | 12.2 | 52.3 | 32.2 | 4338 |
| 13 教員は学生の質問に丁寧に対応してくれましたか。 | 2.5 | 11.3 | 52.6 | 33.6 | 4348 |
| 14 あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。 | 3.3 | 13.0 | 55.4 | 28.3 | 4348 |
| 15 教員が授業に熱意を持っていると感じられましたか。 | 1.9 | 7.0 | 49.6 | 41.5 | 4350 |
| 16 教員の遅刻や休講がなく、標準的な授業時間数(90分×15回)が確保されていましたか。 | 1.8 | 7.1 | 45.5 | 45.6 | 4356 |
| 17 教員は、あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。 | 5.0 | 17.7 | 51.9 | 25.5 | 4303 |
| 18 学生数は適切でしたか。 | 2.6 | 11.0 | 54.1 | 32.3 | 4356 |
| ●授業の総合的評価 | | | | | |
| 19 総合的に判断して、この授業に満足していますか。 | 4.1 | 15.4 | 50.7 | 29.8 | 4355 |
| 20 この授業科目の受講を後輩にすすめたいと思いますか。 | 4.4 | 15.3 | 51.0 | 29.3 | 4361 |

表5 専門教育科目(講義・演習)の授業評価

| 項 目 | 回 答(%) | | | | 人数 |
|---|--------|------|------|------|------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| ●学生自身についての質問 | | | | | |
| 1 あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない) | 0.4 | 1.8 | 13.6 | 84.2 | 3063 |
| 2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない) | 3.2 | 13.0 | 49.0 | 34.8 | 3057 |
| 3 この授業のために、授業時間以外の学習を1週間あたり何時間くらいしましたか。 (4:3時間以上, 3:2~3時間, 2:1~2時間, 1:1時間未満) | 68.0 | 22.8 | 5.2 | 4.1 | 3058 |
| ●授業と教員についての質問 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない) | | | | | |
| 4 コースカタログ(授業案内)等で授業の目的、内容、成績評価の基準は適切に示されましたか。 | 2.4 | 6.9 | 51.6 | 39.1 | 3058 |
| 5 授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。 | 2.8 | 8.5 | 53.0 | 35.7 | 3057 |
| 6 理解すべき重要な箇所が強調されるなど、授業の説明はわかりやすかったですか。 | 3.7 | 17.5 | 49.5 | 29.4 | 3060 |
| 7 あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。 | 7.4 | 20.5 | 47.9 | 24.1 | 3061 |
| 8 この授業により、自分の考えが培われるなど、得るところがありました | 5.2 | 13.2 | 47.6 | 34.0 | 3060 |
| 9 この授業により知的な刺激を受け、さらに関連する分野を学んでみたいと思いましたが。 | 6.5 | 19.4 | 44.4 | 29.8 | 3061 |
| 10 教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか。 | 7.1 | 17.3 | 41.6 | 34.0 | 3061 |
| 11 黒板、視聴覚・情報機器を使用する授業の場合、使い方は適切でしたか。 | 7.1 | 16.4 | 42.5 | 33.9 | 3055 |
| 12 教科書やプリントなどの補助教材は、授業内容の理解に役立ちましたか。 | 4.8 | 10.9 | 45.8 | 38.4 | 3057 |
| 13 教員は学生の質問に丁寧に対応してくれましたか。 | 4.2 | 14.6 | 47.1 | 34.1 | 3041 |
| 14 あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。 | 5.0 | 14.3 | 50.5 | 30.2 | 3061 |
| 15 教員が授業に熱意を持っていると感じられましたか。 | 3.8 | 10.5 | 43.5 | 42.2 | 3061 |
| 16 教員の遅刻や休講がなく、標準的な授業時間数(90分×15回)が確保されていましたか。 | 2.5 | 6.8 | 40.0 | 50.7 | 3060 |
| 17 教員は、あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。 | 8.0 | 17.7 | 46.9 | 27.3 | 2933 |
| 18 学生数は適切でしたか。 | 3.1 | 7.7 | 49.2 | 40.0 | 3056 |
| ●授業の総合的評価 | | | | | |
| 19 総合的に判断して、この授業に満足していますか。 | 6.9 | 13.7 | 46.5 | 32.9 | 3060 |
| 20 この授業科目の受講を後輩にすすめたいと思いますか。 | 7.4 | 13.3 | 45.2 | 34.2 | 3059 |

表6 専門教育科目(実験・実習)の授業評価

| 項目 | 回答(%) | | | | 人数 |
|--|---|---|---|---|-----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| ●学生自身についての質問 | | | | | |
| 1 | あなたはこの実験にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない) | | | | 696 |
| 2 | あなたはこの実験に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない) | | | | 694 |
| 3 | この実験のために、授業時間以外の学習を1週間あたり何時間くらいしましたか。 (4:3時間以上, 3:2~3時間, 2:1~2時間, 1:1時間未満) | | | | 695 |
| ●授業と教員についての質問 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない) | | | | | |
| 4 | コースカタログ(授業案内)等で授業の目的、内容、成績評価の基準は適切に示されましたか。 | | | | 693 |
| 5 | 実験の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。 | | | | 694 |
| 6 | この実験はよく準備されていて、予定の実験が円滑に進められたと思えましたか。 | | | | 694 |
| 7 | 使用した器具や設備は良いと思えましたか。 | | | | 694 |
| 8 | 安全管理に対する配慮が十分になされていましたか。 | | | | 693 |
| 9 | 教員の説明やプリントの内容はわかりやすいと思えましたか。 | | | | 694 |
| 10 | 教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか。 | | | | 694 |
| 11 | 授業時間数に対して、実験項目数は適切でしたか。 | | | | 692 |
| 12 | 実験は学生の反応(理解度)を確認しながら進められていましたか。 | | | | 694 |
| 13 | 教員は学生の質問に丁寧に対応してくれましたか。 | | | | 694 |
| 14 | 教員は、あなたが提出したレポートに対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。 | | | | 692 |
| 15 | 教員が授業(実験)に熱意を持っていると感じられましたか。 | | | | 694 |
| 16 | 実験内容はあなたにとって有用でしたか。 | | | | 694 |
| 17 | 実験内容に関連したことを、さらに勉強してみようと思えましたか。 | | | | 689 |
| 18 | 学生数は適切でしたか。 | | | | 692 |
| ●授業の総合的評価 | | | | | |
| 19 | 総合的に判断して、この授業に満足していますか。 | | | | 694 |
| 20 | この授業科目の受講を後輩にすすめたいと思いますか。 | | | | 694 |